

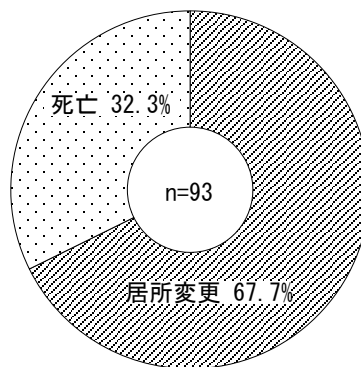
第5章 サービス事業所調査

1 在宅生活改善調査

(1) 過去1年間の居所変更と自宅等における死亡の割合

▶過去1年間に自宅等から居所を変更した利用者と自宅等で死亡した利用者の割合をみると、「居所変更」は67.7%（63人）、「死亡」は32.3%（30人）です。

図表5-1 過去1年間の居所変更と自宅等における死亡の割合



(2) 過去1年間に自宅等から居場所を変更した利用者の行先別の人数

▶「居所変更」した63人の行先をみると、「住宅型有料老人ホーム」が19人と最も多く、次いで「サービス付き高齢者向け住宅」が12人などとなっています。

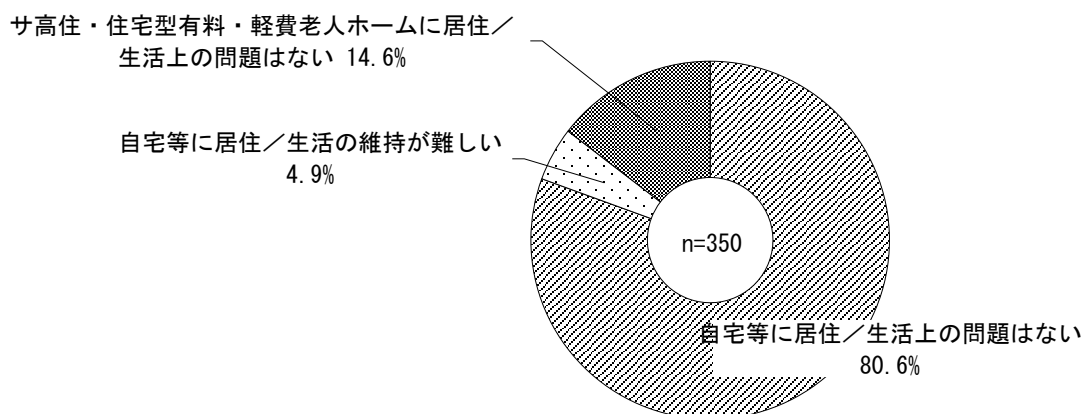
図表5-2 過去1年間に自宅等から居場所を変更した利用者の行先別の人数

行 先	町 内	町 外	合 計
兄弟・子ども・親戚等の家	0 人 (ー)	1 人 (1.6%)	1 人 (1.6%)
住宅型有料老人ホーム	8 人 (12.7%)	11 人 (17.5%)	19 人 (30.2%)
サービス付き高齢者向け住宅	11 人 (17.5%)	1 人 (1.6%)	12 人 (19.0%)
グループホーム	1 人 (1.6%)	0 人 (ー)	1 人 (1.6%)
地域密着型特定施設	2 人 (3.2%)	0 人 (ー)	2 人 (3.2%)
介護老人保健施設	8 人 (12.7%)	1 人 (1.6%)	9 人 (14.3%)
介護医療院	3 人 (4.8%)	0 人 (ー)	3 人 (4.8%)
特別養護老人ホーム	3 人 (4.8%)	3 人 (4.8%)	6 人 (9.5%)
地域密着型特別養護老人ホーム	0 人 (ー)	1 人 (1.6%)	1 人 (1.6%)
病院・診療所	7 人 (11.1%)	2 人 (3.2%)	9 人 (14.3%)
合 計	43 人 (68.3%)	20 人 (31.7%)	63 人 (100.0%)

(3) 現在、在宅での生活の維持が難しくなっている利用者

▶現在のサービス利用では生活の維持が難しくなっている利用者については、「自宅等に居住／生活の維持が難しい」が4.9%（17人）あります。

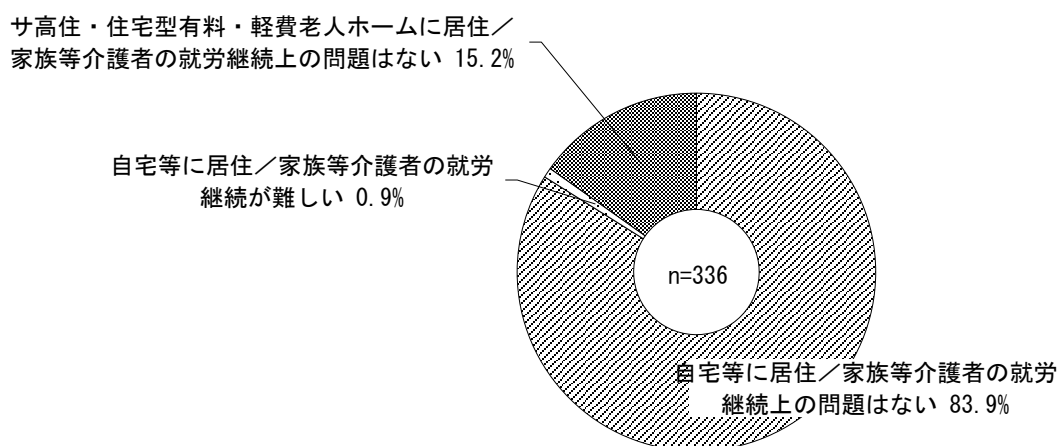
図表5-3 現在、在宅での生活の維持が難しくなっている利用者



(4) 現在、家族等介護者の就労継続が難しくなっている利用者

▶家族等介護者の就労継続が難しくなっている利用者については、「自宅等に居住／家族等介護者の就労継続が難しい」が0.9%（3人）あります。

図表5-4 現在、家族等介護者の就労継続が難しくなっている利用者



2 居所変更実態調査

(1) 過去1年間の退居・退所者に占める居所変更・死亡の割合

▶過去1年間の退居・退所者に占める居所変更・死亡の割合をみると、死亡の割合が80%以上で高いのは特別養護老人ホームと住宅型有料老人ホームです。

図表5-5 過去1年間の退居・退所者に占める居所変更・死亡の割合

図表5-6 サービス種別	居所変更	死 亡	合 計
住宅型有料老人ホーム (n=2)	6 人 (20.0%)	24 人 (80.0%)	30 人 (100.0%)
サービス付き高齢者向け住宅(n=1)	4 人 (50.0%)	4 人 (50.0%)	8 人 (100.0%)
グループホーム (n=1)	9 人 (100.0%)	0 人 (-)	9 人 (100.0%)
介護老人保健施設 (n=1)	66 人 (76.7%)	20 人 (23.3%)	86 人 (100.0%)
介護医療院 (n=2)	25 人 (45.5%)	30 人 (54.5%)	55 人 (100.0%)
特別養護老人ホーム (n=1)	4 人 (12.5%)	28 人 (87.5%)	32 人 (100.0%)
合 計 (n=8)	114 人 (51.8%)	106 人 (48.2%)	220 人 (100.0%)

(2) 居所変更した理由

▶入居・入所者が退居する理由については、「医療的ケア・医療処置の必要性が高まったから」が75.0%と最も高くなっています。

図表5-7 居所変更した理由（複数回答／3つまで）

単位：%

区分	生活支援	身体介護	認知症	医療的ケア	その他状態像の悪化	状態等の改善	居宅サービス利用を望まなかった	費用負担	本人の希望	その他
(n=8)	—	25.0	25.0	75.0	12.5	12.5	12.5	12.5	50.0	50.0

3 介護人材実態調査

(1) 介護職員数の変化

▶過去1年の介護職員数の変化をみると、施設・居住系サービスでは採用者数に対し離職者数が少なく職員数は増加していますが、通所系サービスおよび訪問系サービスでは採用者数に対し離職者数が多く職員数が減少しています。

図表5-8 介護職員数の変化

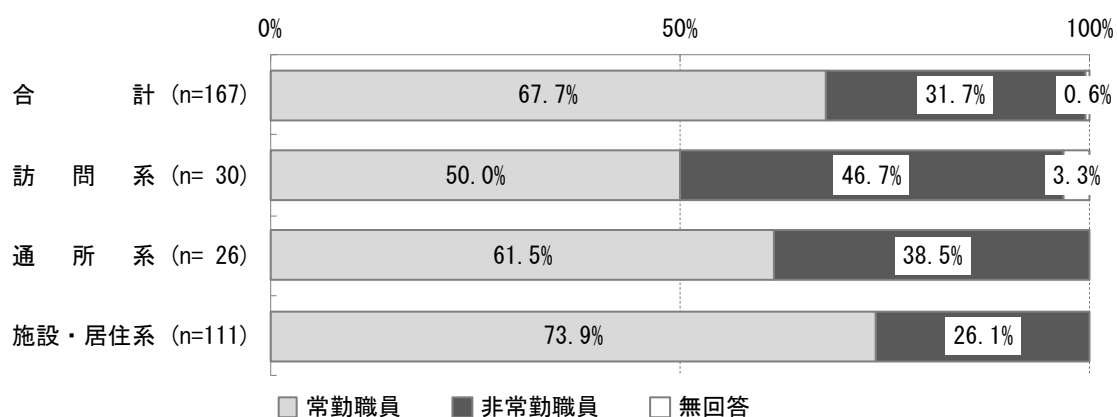
サービス 系統	職員総数			採用者数			離職者数			昨年比		
	常勤職員	非常勤職員	小計	常勤職員	非常勤職員	小計	常勤職員	非常勤職員	小計	常勤職員	非常勤職員	小計
全サービス系統 (n=19)	133人	57人	190人	30人	17人	47人	22人	14人	36人	106.4%	105.6%	106.1%
訪問系 (n=3)	13人	3人	16人	2人	1人	3人	3人	1人	4人	92.9%	100.0%	94.1%
通所系 (n=4)	13人	10人	23人	4人	1人	5人	4人	4人	8人	100.0%	76.9%	88.5%
施設・居住系 (n=12)	107人	44人	151人	24人	15人	39人	15人	9人	24人	109.2%	115.8%	111.0%

※nは事業所数

(2) 介護職員のサービス系統別の常勤職員・非常勤職員の割合

▶サービス系統別に介護職員の常勤・非常勤の割合をみると、施設・居住系サービスでは「常勤職員」が70%以上を占めていますが、訪問系サービスでは50.0%となっており、「非常勤職員」の割合と拮抗しています。

図表5-9 介護職員のサービス系統別の常勤職員・非常勤職員の割合



(3) 介護職員の性別・年齢別の雇用形態の構成比

- ▶介護職員を性別・年齢別にみると、50歳代以上が50%以上を占めており、特に女性の50歳代が25.7%、60歳代が16.8%となっています。
- ▶性別・年齢別に雇用形態の構成比をみると、男性は全員が「常勤職員」ですが、女性は年齢が上がるにしたがい非常勤の割合が高くなる傾向にあり、60歳代以上では過半数を占めています。

図表5-10 性別・年齢別の雇用形態の構成比

